

危険・有害性の要約

- 分類の名称 : 分類基準に該当しない。
- 危険性 : 水溶液では通常不燃。
- 有害性 : 皮膚に接触すると刺激があることがある。目に入ると著しい刺激がある。飲み込んだ場合は下痢を起す事がある。飲み込んだ場合下痢を起す事がある。
- 環境影響 : 濃度の高い物は生物に影響を及ぼすこともある。

応急処置

- 目に入った場合 : 目に入った場合は清水で十分に洗い流し、必要に応じ眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに水で洗い流し、付着した衣類も直ちに洗い流した方がよい。(天然素材の衣類を劣化させる)
- 吸入した場合 : 患者を直ちに空気の新鮮な場所へ移動させ、安静、保温に努め、医師の手当てをうける。
- 飲み込んだ場合 : 多量の水を飲ませ、必要に応じて医師の診断を受ける。
- ### 火災時の処置

- 消化法 : スーパーロックスG自体は不燃焼であるが、容器周辺の火災の場合は直ちに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器及び周辺に散水して冷却し延焼を防ぐ。製品が混入した消化排水は強酸なので、アルカリによる中和処理が望ましい。
- 消火剤 : 水等、通常の消火剤で有効である。

漏出時の処理

- 環境保護対策 : 盛土等で囲って河川、水田などへの流出を極力防止する。万一大量に流出し、一般市民、水棲生物への影響が懸念される場合には、直ちに関係官庁、供給者へ連絡する。
- 流出物の処理 : 出来る限り容器等に回収し、回収不能分については消石灰、炭酸カルシウムなどを用いて中和する。

取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : 通常の状態では引火、爆発、蒸気発生への心配はない。飛沫が目に入ったとき刺激があるのでゴーグル着用が望ましい。眼・皮膚への接触を防止するため、保護眼鏡、保護手袋等を着用する。
- 保管 : 高温多湿を避け、密封して冷暗室所に保管する。開封後不衛生な扱いをしたり、水で希釈したりすると微生物の発生の危険性があるので、開封後は速やかに使い切ることを。

暴露防止措置

- 管理濃度 : 規制値なし。
- 許容濃度 : ACGIH(TLV) TWA (Mn) 0.2 mg/m³
日本産業衛生学会勧告値(1980年度版) ; 記載なし
- 保護具 : 呼吸用保護具 必要に応じて着用 保護眼鏡 着用
ゴム手袋及びゴム長靴は必要に応じて着用。

物理／科学的性質

- 外観等 : 淡緑色から淡黄色の液体
- 沸点 : 97～100℃ 揮発性 : なし
- 凝固点 : 約-0℃ 比重 : 約1.02
- 溶解度 : 水によく溶ける

危険性情報

- 引火性 : なし 発火性 : なし 爆発限界 : なし
- 可燃性 : なし
- 発火性(自然発火性・水との反応) : なし
- アルカリで中和するとミネラルが分離し、沈澱する。

有害性情報

- 皮膚腐食性 : なし
- 刺激性 : 皮膚に軽度の刺激あり、眼にかなりの刺激がある。
- 感査性 : なし
- 毒性試験 : ヒメダカによる魚類毒性試験(試験品 1.000ppm における)

48時間試験水中に飼育したところ異常を認めなかった。
pH 試験開始後 3.6、24 時間後 4.5、48 時間後 4.6、水温 20
-23℃

環境影響情報

分解性 : 生分解率 99%以上
魚毒性 : T L m48 1000ppm

廃棄上の注意

水で薄めて流すか、消石灰又は炭酸カルシウム等で中和した後廃棄する。
廃棄の際は「廃棄処理法」、「水質汚濁防止法」等の関係法令を順守する。

輸送上の注意

運搬に際しては、容器から漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷などに注意して行う。

適齢法令

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

参考文献

- 1) (財) 日本食品技術研究所の試験報告書
- 2) (株)ラビトン研究所 非臨床試験センターの試験報告書
- 3) 日本食品分析センターの試験報告書

この MSDS は、沖縄サンロックス有限会社の基準に基づいて作成されたものです。

眼に入ったりした場合かなり刺激があり、評価は十分でないので、取扱いには十分注意して下さい

本 SDS は、下記コーエー株式会社の情報を元に作成しました。該当物質につ

いては下記にお問い合わせください。

製造者情報

会社	コーエー株式会社
住所	山梨県中央市下三條 608 番地
電話番号	055-273-7057
FAX 番号	055-274-0144
緊急連絡先	055-273-7057